

試行錯誤の蓄積が現場力を育む

橋本精密工業株式会社

試行錯誤

精巧な技術と、スピーディーで柔軟な対応力を持ち味とする橋本精密では、電気接点に用いられる極小・精密なプレス部品を、金型製作から請け負っている。

同社が業種転換を経て、電気接点部品を手がけるようになったのは15年ほどまえのことだ。当時は、主力となる職人を外部から雇い入れるのが通例となっていた。そうした職人の持つ技術やノウハウは、彼らが現場を去るたびに失われてしまう。同社にとっては技術



極小カシメ部品。顕微鏡でなければカシメ部分が確認できない。

の蓄積こそが、課題だった。

ベテラン職人がのきなみ現場を去ると、経験に乏しい若者だけが残された。いきなり現場の最前線に立たされた彼らは、頼れる人もなく、先達が残した金型を手本にしながら作業する。失敗の連続、それは試行錯誤の日々だった。

二人の若手

現在、同社の製造部部长を勤める井上氏と技術部部长の杉本氏も、当時はまだ、そんな若者たちの1人だった。2人は技術の研鑽に努め、ひたすらに試行錯誤を積み重ねた。いつでも仕事は手に余るものばかりで、それでもどうにか技術を追いつかせ、依頼に応えた。一度引き受けた仕事を断るわけにはいかない。やるしかなかった。

上司のいない現場は、たしかに困難の連続だった。けれど、同時に自由でもあった。井上氏と杉本氏は、なん



金型製造工程。試行錯誤の蓄積が創意工夫を育む。

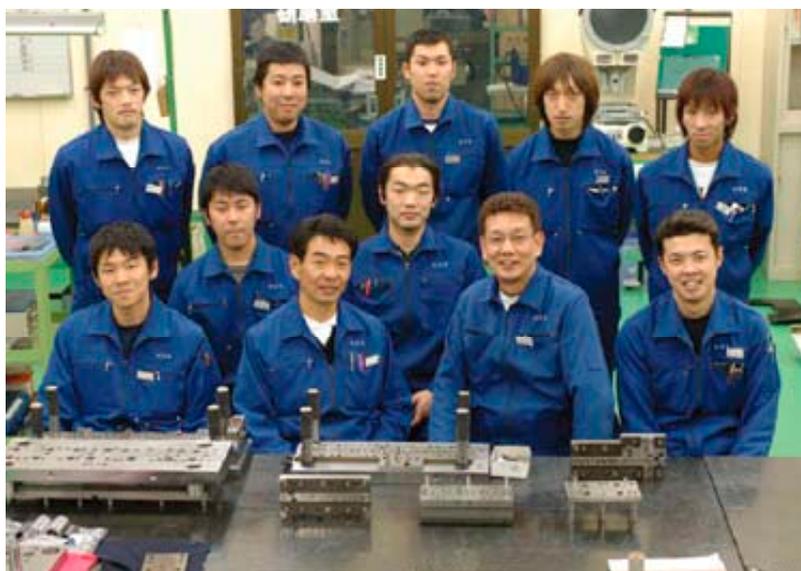
職人の力

の気兼ねなく意見を出し合い、アイデアを実現していった。結果を得るまでに遠回りすることもあったが、無駄なものはない。試行錯誤があったからこそ、ムラのない知識と経験を得ることができたのだ。

いつしか同社は、マイクロモーターのなかでも心臓部にあたる、超精密部品ばかりを手がけるまで

になっていった。井上氏と杉本氏は、生え抜きの職人として、技術力を支えつづけている。研鑽に明け暮れた技術は、気づけば顧客の要求水準を超えるほどになっていった。それでも年に数点舞い込んでくる困難な依頼には、いまでも彼らは心躍らせ、試行錯誤に没頭する。「難易度の高いものを達成する喜びは、格別です」(井上氏)。まさしく現場の中心となり、後進の指導にあたるようになった彼らにとって、職人とは「経験の蓄積から、トータルな知識と対応力を身につけた人」(杉本氏)。だからこそ若手には、遠回りしたり、失敗したりする機会を与えるような心がけている。彼ら同様、試行錯誤のなかから、次世代の職人が育まれてゆくように。

編集部／近江匡宜



現場を支える両名(写真前列中央)と、次世代の職人達。

Company Profile

橋本精密工業株式会社

所在地: 茨城県西茨城郡岩間町安居 3122

TEL: 0299-45-7155 FAX: 0299-45-7157

担当者: 橋本靖久、杉本浩良、井上茂、武田真一

事業内容: 電気接点部品、複合カシメプレス部品、精密薄板パネ部品、精密順送プレス金型製作

エミダス会社・工場詳細情報:

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?1302>

※「エミダス工場検索」のキーワード検索「橋本精密」で検索できます。

日本製造業パワーアップCD-ROMにて、同社の工場技術

動画をご紹介します!